

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人 社団 初心会		
事業所名	グループホーム みたき	ユニット名	樺
所在地	仙台市青葉区八幡7-14-17		
自己評価作成日	R3/12/25		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1ユニットになり、1階、2階の入居者様が一緒に生活をするようになってまだ日が浅いですが、レクリエーションなどを通じてコミュニケーションを深めています。コロナが5類になったことで保育園児の訪問も再開され、季節の行事や日々のレクリエーションの活性化を図っています</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは坂道を上った小高い住宅地の一角に位置する。近隣に同法人の杜のホスピタル・あおばやグループホーム等が点在し、日常的に協力関係がある。法人で夕食後に飲酒を伴うユニークなサービスの提供等があり入居者も参加できる。車で10分程の大崎八幡宮の裸参りに、20名程の職員が白装束で毎年参加し、法人の各施設を回り入居者も楽しみにしている。積雪のある季節は事業所が自前の小型除雪機で近所の雪も除雪し感謝されている。令和5年12月1日より2ユニットから1ユニットに縮小し運営している。退去後も入居者の相談に乗りサポートしている。空いた2階ユニットは、外国人技能実習生の寮として活用している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 2 月 8 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム みたき)「ユニット名 櫻」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でも定着しつつあり、職員も新たな環境の基、入居者様とともに生活しています	職員の意見を集約し理念を作成した。「一人ひとりその人らしさを大切に、入居者様もスタッフも笑顔あふれる陽だまりのようなグループホームみたき」を掲げ共有している。居心地の良い場所となる支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	羊がいたころは、地域の交流の場としての役割を果たして、近隣の方とスタッフの交流が持っていました。現在も近隣の方との交流は継続しています	町内会に加入し地域の防災訓練等に参加している。羊が「いわぬまひつじ村」に移っても、地域交流が続いており、近所から家庭菜園で採れた野菜の差し入れ等がある。音楽療法士や保育園児との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	草刈りや除雪、街灯の設置などを通じて施設の理解を深めていただき、地域の方にも存在を意識していただいていると思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	草刈りや除雪、街灯の設置などを通じて施設の理解を深めていただき、地域の方にも存在を意識していただいていると思います	メンバーは地域包括職員や民生委員等7名で構成されている。グループホームひじりと合同での会議は、対面で2回開催された。それ以外の会議は開催されず記録も確認出来なかった。	前回の目標達成計画にも挙げていたが、達成されなかった。運営推進会議の意義を確認し、年6回の開催を引き続きお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の主催の研修や今回のユニット縮小の際などに仙台市の方と連絡を密に行っていました	この度ホームの廃止、或いは休止等の相談をしたところ、市からのアドバイスもありユニットを縮小し、1ユニットで運営することになった。オンラインでのケアマネ研修や集団指導等の市の研修を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人自体が身体拘束を行わないことを原則としているので、今後も身体拘束を行わないケアの継続を行っていきたいです	玄関の施錠はしていない。一人で出かけようとする方にはしばらく付き添い、声がけの工夫をしている。居室の構造上ベッドを壁際に配置しているが、拘束にならないか等を話し合っている。職員は弊害について理解し、身体拘束を行わないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる不適切なケア特に、スピーチロックなどの研修を行い、普段のケアも一つ間違えば虐待に当たることを理解していると思います	「身体拘束最少化委員会」を年4回行い、職員の研修時に周知している。毎回委員会は内容を特化し具体的に検討している。スピーチロックやセンサーの取り扱い、向精神薬処方等についても研修し共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度への研修への参加と、ご家族からの相談に応じて、その都度関係者の方々と話し合いを持っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分お話をを行い、ご家族様の不安解消に努めています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対面での面会もさいかいできており、その際に入居者様の情報やご家族様からのお話を聞くようにして、訪問マッサージや歯科受診につなげています	家族からの電話や面会時に聞いている。インフルエンザ予防ワクチン接種は、家族の意向を尊重している。遠方の家族が「毎日声が聞きたい」の要望に、すぐ電話に出られるように支援している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの開催やスタッフ一人一人と話す機会をもって、働きやすい環境を作れるようにしています	職員から必要な物品の提案があり、掃除機とスリッパラックを購入した。玄関周りがすっきりと片付けられるようになった。ケア記録の漏れがあり、書式を工夫して改善し、時間でチェックするようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見を聞きつつ、勤務については希望休を聞いたり、誕生日休暇の取得、家族の都合の勤務変更にも柔軟に対応しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネットを通じての研修や初任者研修の受講を進めています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八幡連携の会も対面で行われてきたので参加を行い、ネットワークづくりを行っていました	ユニット縮小に伴い、退去した入居者の転居先を訪問したり連絡を取り合い相談に努めている。「はちまん連携の会」は、医療関係者や介護福祉に関わる施設の職員等20数名で、役割や活動を理解し情報を交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安なく生活できるようにお話を傾聴し、安心した生活を送れるように支援を行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際や、入居の際、面会の際などにお話をし、疑問や不安などに対応できるようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に何を必要としているかをスタッフとも話、必要な支援を見極められるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器拭き、洗濯物をたたむなど入居者様が出来ることをしていただくことで、一方的に介護されるだけの関係にならないようにしています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様の関係を大切にし、ご家族様に依頼したり、お話を聞いています		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までデイケアを利用していた方は、そのまま継続したり訪問マッサージなどを継続しています	馴染みの大崎八幡宮を詣で、おみくじを引いたり帰りに外食することもある。デイケアを利用する方の関係継続支援をしている。毎日定時に家族と電話する方や、来訪する床屋とは新しい馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが入居者様に寄り添い、お話を聞いたり他の入居者様との間の橋渡しを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今回のユニット縮小でみたきを退去された方とも連絡を取り相談に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の希望や意向の把握に努めて、表現できない方には何がいいのかをスタッフで話し合っています	日常の会話や着替え等の支援時に要望を聞いている。プリンアラモードの手作りスイーツやちらし寿司、鰻、はらこ飯等食べたい物の要望が多い。表出が難しい方は、雰囲気や問いかけに反応があった時に判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントや既往、生活歴などを参考に入居者様の背景を理解し、ケアにつなげられるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の様子や状態を確認しどのような対応が必要かを把握できるように努めています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どのようなケアが必要か、どのようなことが必要かを検討し、ケアにつなげられるようにしています	担当職員の意見や看護、介護記録、連絡ノート等の内容を検討し作成している。天気の良い日に長めの散歩をし、入居者が不満を抱えた胸の内を職員に吐露した。本人の思いをプランに入れ共有し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看護・介護記録、連絡ノートを活用し情報の共有を行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か変化があればその都度話し合いを行い、対応できるものについては対応を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が出来ることやしたいことが実現できるように支援を行っています		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の状態変化を観察し、変化があればDrに相談し適切な医療を受けられるように支援を行っています	全員が杜のホスピタル・あおばがかかりつけ医である。内科と精神科の主治医の月2回の訪問診療を受診している。皮膚科と眼科は通院している。訪問歯科医による治療と、歯科衛生士が口腔ケアの指導をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師、法人本部の看護師と連携を取り対応を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合には入院先にもホームでの受け入れ態勢などを説明し、回復した時には早期に受け入れができるように支援を行っています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について考えていただき、その後の体調に合わせてご家族様と話し合いをしながら進めています	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」「重度化時対応希望書」「緊急時の事前意思確認書」を明文化している。今年度は、亡くなる前日まで食事を摂取していた102歳の方が、大往生された事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況の把握、連絡相談を行えるようにしています		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡物活用や避難の際には法人本部とも連携をとれるようにしています	令和5年10月に夜間想定で、火災の避難訓練を実施している。実施後の感想とその対応方法を記録している。年度内の3月中に日中想定の実施する予定である。3日分の非常食と備品の準備をしている。	日中と夜間想定で、年2回以上の避難訓練をお願いしたい。地域住民の協力体制の再開と、2階ユニットの寮生への協力打診もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や人格を尊重したうえで声かけを行っています	一人ひとりのその人らしさを尊重した声掛けをしている。下の名前に「さん」付けで呼んでいる。排泄の失敗時は、周りに気付かれぬように小さい声でそっとトイレに行き戸は閉めて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とお話をして、何かしたいことはないか、食べたいものや、行きたいところなどの情報を収集し、希望を表現できるようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や状態によって予定を変更したり、入居者様のペースに併せて生活を支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面介助時に髪を整えたり、ヘアカットの希望を聞いたりして支援を行っています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを季節に合わせたものや、入居者様の希望を聞いたりして作り、食事の後の食器ふきなどを一緒に行っています	業者の配達と精肉や野菜はスーパーで購入している。食事の準備や片づけ等は入居者と一緒に行い賑やかに食している。いなり寿司作りが得意な方がいる。その方の嚥下状態に合わせ、刻み食やトロミ対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設内の看護師、法人本部の看護師と連携を取り対応を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を活用し、入居者様の口腔内の状態の把握、毎日のケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	坐位が取れる方はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促しています	全員トイレでの排泄を支援している。自立度が高くオムツの方はいないが、安眠を優先し夜間のみ使用する方がいる。布パンツにパッドの方や頻回に訴える方等、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒やヨーグルトの提供、腸内環境を整えたり、水分の把握などで便秘の予防に取り組んでいます		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回入られる方や、入浴剤、ゆず湯などの工夫を行い、また、ゆっくり入ることができるように支援を行っています	脱衣所に可動式の手摺りや予備の暖房を設置している。2人介助の方が3名いるが、座位が保てるうちは出来る限り湯船に入るよう支援をしている。拒否が強い時は日を改めて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	甘酒やヨーグルトの提供、腸内環境を整えたり、水分の把握などで便秘の予防に取り組んでいます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服について変更があった場合には、口頭と申し送りノートでの周知を行っています。また、ケース記録に内服情報とどのような効果があるか添付しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法士の訪問や、園児の訪問などのイベントや、レクリエーション活動を通じての楽しみや、一緒に家事を行っています		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の習慣のある入居者様には、スタッフが付き添って散歩したりしています	ホームは坂道を上った高台にある。裏のマンション横の葛岡駅に通じる近道や、近所の家の前に咲いている草花、家庭菜園等を眺めながら散歩している。大崎八幡宮や錦ヶ丘、三居沢河川敷方面に季節のドライブをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会があまりなく、以前ご自分で小銭などを持っておられた方もいましたが、いまは管理ができなくなってきています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用し電話をかけている方もいらっしゃいます		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所には常に生花飾っており、季節の行事食や壁飾り、イベントを行ったりしています	明るく解放感のあるホールに、年中切らさず生花を飾り入居者が水を変えている。ホールにはオレンジの薔薇、玄関には啓翁桜が活けてあった。午後のひと時を、入居者は笑顔でゆったりと談笑していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況を把握し、スタッフが隣に座って話したり、ゆったりお部屋で過ごして頂いたりしています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真やお手紙を飾ったりして心地よく過ごせるようにしています	姿見付きの収納力がある大型のクローゼットが配置され、整理整頓しやすくスッキリと片付いている。家族の写真や季節の掛け軸を飾っている。ラジカセで趣味のクラシックを聞く等、自分らしく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手すりの設置やお茶が常に飲めるようにポットを常備しています		